

DUNGEONS & DAIMEIWAKU

¥ 0

大迷宮 大迷宮

～GREAT EDGES IN THE ABYSS～

迷宮探索シナリオブック



Liar-soft



ALCHEMIST

ニコライト・バルシャイド

波打ち豊かな髪の、世慣れていて、艶めかしい美女。性格は達観と強欲を同居させた、パーティの世話役＆ご意見番。
職業としては魔法職に位置するのだが、呪文は使わず鍊金術の秘薬でもって魔法効果を発動させる。



SAMURAI

斯波将覽

(しば・しょうらん)

パーティのお殿さま。武士道を奉じ、弱きを助け強きをくじく正義漢……ではあるのだが、とにかくおつむが頓珍漢でお馬鹿すぎる困った子。
職業は侍。剣技は超一流なのだが、「侍は弱きを守り、斬らぬもの」という建前を馬鹿正直に信じており、そうした相手には峰打ちしか放てない。



ARCHER

黒 琢

(くろづか)

途中からパーティに加入する、絶世の美少女。性格は良くも悪くも浮世離れしている。
パーティ内のクラスとしては弓手。ズバ抜けた、神がかった技量を示す。



NINJA

ハワメイ丸

褐色肌のエルフ。職業は忍者。忍術に関してはマスタークラスなのだが、彼女は「とかく怖い考えにとらわれがち」であるため、忍んでられない。

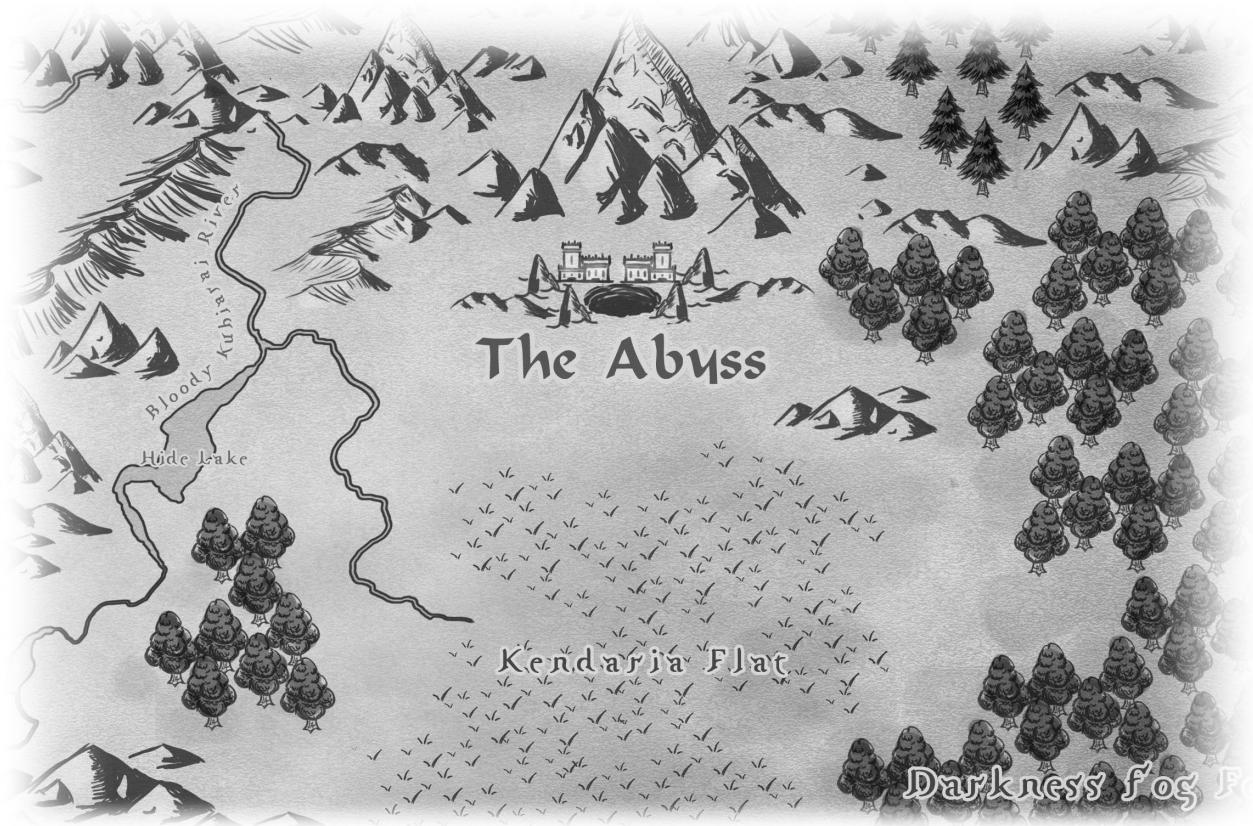
[0006]

◆★ 演技：映画冒頭のナレーション風で（※たいてん感）

◆黒塚 若き侍とその仲間である、美しき女術師と可憐なエルフ娘が、
今まさしく足を踏み入れたところから、迷宮の冒険譚は始まるのであつた……。

（いまだ

月の剣の年代史より――



◆「コライド」 [0120]

刀なんて名前すら知らないんじゃないのかね。なのにや見合わぬ刀だ。てか、

盗賊団モブ お前 なにあつさり返して……。

盗賊団モブ いや、なんか逆らうとかこれっぽっちも……。

将覧 ニコライド！

◆「コライド」 [0121]

やあすまない。まあ、この人たちの本性を見極めようとしたんだよ。

将覧 あのねえ皆日那。後先考えずに飛び出しちゃますことになりますよって、いつ もあれほど教えて聞かせてるじやありませんか。ねえ。

◆「コライド」 [0122]

で。こう見たしました。

将覧 どうやら追剥の類だ。放つておいたら他に累が及ぶ。

◆「コライド」 [0123]

どうやら追剥の類だ。放つておいたら他に累が及ぶ。

将覧 どうやら追剥の類だ。放つておいたら他に累が及ぶ。

◆「コライド」 [0124]

おうよ、言われねえでも！

盗賊団モブ 「……」一目見ただけで判りそうなもんだが、まあいい。

盗賊団モブ おうよ、言われねえでも！

◆「コライド」 [0125]

おうよ、言われねえでも！

——この手の輩というは、学習能力がないからこういう稼業に甘んじているわ けだが、それがこの度もいかんなく發揮された。

将覧 さあ、僕は抜いたぞ。そつちも武器を構えてかかって来い！

ただ僕は峰打ちで行く。とどめは刺さない。懲らしめるだけだ。

◆「コライド」 [0126]

こんな阿呆どもにや、一番安い薬でももつたいねえんですがねえ。

盗賊団モブ なんだこいつら、えれえ強いぞー！？

盗賊団モブ こつちの女、詠唱も無しに術法を！？

戦闘と、言う程もなく、立ち合はいは将覧とニコライドが先手を取つて二度・三度と 刀を振るい、薬壇を投げつけただけで終了した。

その軽装からして後衛、魔法職と察して、ニコライドに攻撃を仕掛けて詠唱を途絶 えさせようといふ程度の知恵の回る者もいたけれど。

盗賊団モブ こいつ、練金術師かっ。

盗賊団モブ なんなんだ。この小僧と言いつて言い！

その足元に投げつけられた薬壇から立ち上った青い煙を吸つた途端に美事に昏 倒し、流れた煙に巻きこまれた者も同様の裏切り目を辿つた。

盗賊団モブ なんなんだ。この小僧と言いつて言い！

◆「コライド」 [0126]

相手の強さを見抜くくらいの目、養つておくべきつてこつた。

ほふもああんた一人だ。さてどうするね？

盗賊団モブ こつちにだつて面子つてもんがあんだけ！

盗賊団モブ そのガキの腕一本くらいはとつておかねえといつちにだつて！

盗賊団モブ たちまち打ち倒されていく追剥衆。もはや残りはボス格1人のみ。自暴自棄となつた追剥衆が、将覧に飛びかかるつてこつとしたところ――

盗賊団モブ たら追剥衆が、将覧に飛びかかるつてこつとしたところ――

◆ハクメイ丸 しししし、閉めないと！

絡みつかれる前に落し蓋を叩きつける。

[0128]

◆ハクメイ丸 いのいのいる、引っ込むあります！

[0129] ◆ハクメイ丸 御前も「コライト」も、見てないで助けてほしいでありますようつ。

[0130]

◆ハクメイ丸 あんちも旦那が、どうしてもつとちやんとできねえのやらだ。

[0131]

◆ハクメイ丸 妙などころから出てくるなり妙な塗梅で。 将覽 まあまあ。ほら君、さつさと穴から出よう。

[0132] ◆ハクメイ丸 その蝕足は、……まあ酔でもかければ引っこむんじやなかろうか。

二口、米酢でもワインビネガードでも何でもいいよ。ないかい？

[0133]

◆ハクメイ丸 これをマリネにしようと、御前の胆にはいつもながら驚かされるでありますね……。

::★大背景・シ・アビス一編

[0134]

◆二コライト 日那、あのクズどもは？

将覽 とりあえずあそこには、全員麻酔のツボを突いてから裸に剥いて、人通り

[0135] ◆ハクメイ丸 の多そなあたりに縛って転がしてきたよ。

前……。 後はまあ、相応の報いが降るだろうね。

[0136]

◆ハクメイ丸 自分は連れてしまつたでありますが、また厄介事に巻きこまれてましたか、御

若き侍、斯波将覽。

艶麗なる鍊金術師、二コライト・ベルシャイド。 可憐な二ンジヤ ハクメイ丸。

ジ・アビスだ」、ようやく捕つた一行の、追剥衆を軽くかたずけて、 一息ひいてます開口一番に、二コライトが言い放つた事というのは。

[0137]

◆二コライト うええ。追いついたかと思や、なんだい、あんた、なんだつてばそそう生臭い。さ つきの触手といい、さてはどうかの蝕足とも思つになつてきたかなうつふつふ、 やあらじい。 刻な異異と言つてよかつた。

二コライトはこれでまだ、軽く茶化した部類であつて、実際のところハクメイ丸が 身に帯びていた臭氣というのは、蝕の生臭さももちろんあつたが、それよりなお深

魚介の腐敗臭を更に煮詰めて日当てさらりに臭氣を強めたような。 いかに可憐な乙女とて、体臭がこうでは誰も求愛なそば、まず思いつく以前に鼻を 摘まんでそっぽを向くだろう。

◆ハクメイ丸 うう、術師殿は意地悪であります……。

ハクメイ丸自身も自覚はしているのか、たちまちおしおと萎れる。

将覽 野暮用でちと遅れるとは聞いたけれど、一体何があったのかい？

◆ハクメイ丸 それはですね……。

:::UJIMOTO

◆ハクメイ丸 の回憶となづ、シーロック。

:::UJIMOTO



過酷な、毒物攝取を伴う地丹術でもつて鍛え抜いていなければ――

地上に戻れば、ジ・アビス入り口近辺の宿町に医者がいなくなかったのだけれども、そいつは重度のアル中で酒が抜けていた時の方が少ないという傑物で。ただ、これらの修練の果てに、ハクメイ丸の体というのは通常の薬物というのと通しにくくなっている。

そんなのを、そもそも酒毒で弱っているハクメイ丸に引き合わせようものなら、息の熱帯においてだけ女二ンジヤはまた逆噴射してしまいかねず、大体パーティには鍛金術師、二コライトがいる。

鍛金術師といえば、この時代の文明世界においては、医師と遜色ない医療知識を有する事でも知られている――

[1703]

◆ハクメイ丸

もう4日……ありますよね……も御前と二コライトをこのお宿に足止めしてしまったのだ。そろそろ迷宮歩きも再開せんといけないから。

平生通りの、ひとの心を明るくさせる笑顔を解いた、はずだが、この数日と言うものが将監とかわるがわかる枕に待っていた二コライトから見れば、目の縁にはこすみがまだ残っているのが判る。

人前を避ける、忍び書きが身上の二ンジヤが、わざわざ部屋から出てきて装具の点検などをやっているのは、言う通り、この娘なりの一種の自己暗示なのだろう。

なんとも救われぬ欠点にまみれ、本来的な意味での忍むことは完全失格もいいところのこの二ンジヤだが、それでも一度戦地に入れば、主君にも劣らぬほど、凄絶な戦闘力を見せる。

色々とちぐはぐなのだ、この娘は、二コライトは不意に覚えた痛々しい想いを抑えきれず、つい漏らしてしまった事である。

[1704]

◆二コライト

……旦那は旦那で目を離せねえお人だが、

[1705]

◆ハクメイ丸

……何を言おうと、術師殿……？

[1706]

◆二コライト

どうにも危なっかしいってところがさ。心配にならぬやうんだ、このままだとあたしは、お前さんのくたばるといろを看取る羽目にならんんじやないかつて。

[1707]

◆ハクメイ丸

それはまあ、順当にいったらそうなるでありますよ。

◆二コライト

はあん?

[1708]

二コライト、身も蓋もない言葉に目を剥いた。

[1709]

◆ハクメイ丸

何しろ自分は術師殿にまた恩を受けました。それも、生命を救つてもらつた恩だった……これに報じるには、生命をもつてすら他知らんありますよ自分は。

[1710]

◆二コライト

恩返しの押し売りを受けてる気にしてくれるよ全く。要は気にすんなりって言いたいの。

何時になくしんみりした雰囲気になる2人。

[1711]

◆ハクメイ丸

や、そう言われましてもですね……。

[1712]

◆二コライト

あんたのひでえ味と臭いのダボを匂い出してやつたのも、てめえで動けるようにあるまで、毎晩シモの始末をつけてやつたのも、あたしが好きでやつた事だから氣にすんな。

[1713]

◆ハクメイ丸

ああうう……。

[1714]

◆ハクメイ丸

ひでえ、むしろ肝に念入りに刻んどけて言ってるやりますよねそれって絶対ああたしも、旦那と代わり番あんたの養生の面倒見ながら、

[1715]

◆二コライト

あれこれ薬の調合だの補充だのができた。良い中休みになつたつても言えるのさ。

[1716]

◆二コライト

だからこの話これさりだ。しつこく持ち出す様なら、あんたの寝てる間に、今までおむつ代わりに直撃帶とか穿かせてやるから覚悟しとくに。

[1717]

◆ハクメイ丸

ひい容赦なき排泄制限!?

[1718]

◆二コライト

大体さあ、あたしはそりや確かに黒蓮の酒の件では尽力したが、結局あんたやあつたからだもの御前があの童どもから生きて帰れたのは、ほんとまさか運が良かつたからだ。

あの浅金色の暴風のことは、物に慣れたはずの二コライトの胸裏にも、凄まじい印象を刻みつけていた。

[1719]

◆ハクメイ丸

自分はその時酔払い死にかけてたから覚えてないでありますが、このダンジョンの主「ぬしだかボス」だかが出張つてきて皆殺しつていう、聞く限りや冗談みたいな話だよ……。

[1720]

◆二コライト

まあ、あんたの話じゃ、そつちの里にもそれぐらいはやつてのけるのがいたつてないのかね、ハク。

[1721]

◆ハクメイ丸

いやあんまりにもあんまりなお話なんで、思い出そつとすると頭痛とかしてくるんで、ごめんなさいさせてほしいでありますよ。

そればかりは、ほとほと申し訳なさげに頭を下げるハクメイ丸に、さしもの二コライトも気が引けた事だった。

◆「[口]ライター そんなに、あんたがそこまで言つてな、よっぽど事なんだろう。
ん！……頭痛「あたまいた」のお薬とか出しちょか？

◆ハクメイ丸 じきに収まると思うので、気持ちだけで十分。
といろで、御前は？

◆「[口]ライター さうき大将に呼ばれていつて、それきりだね。
何を話しこんてるやらだが、ちよつといい予感がしないよ……。

◆「[口]ライター さうき大将に呼ばれていつて、それきりだね。
何を話しこんてるやらだが、ちよつといい予感がしないよ……。

[[723]]

◆ハクメイ丸 さうき大将に呼ばれていつて、それきりだね。
何を話しこんてるやらだが、ちよつといい予感がしないよ……。

◆ハクメイ丸も同感だ、と苦笑した時。

[[724]]

◆給仕さん あの、お2人とも、今丈夫ですか？
マスターと斯波さんが、お2人ともお話ししたいって。

二コライター・ハクメイ丸は、更に悪い予感が膨れ上がりつづくのを覚えて、顔を見合せたという。

[[725]]

◆★効果・時間発進

◆★大背景・タラソジン酒場

◆バレンンド ……や、だ。ベルシャイド、間違いはないんだな？

[[726]]

◆「[口]ライター ほらほら。もう何度も口が酸っぱくなるまで言つた通り。

二コライターとハクメイ丸が呼ばれて10数分後。

二コライターは延々と詰問されていた。

[[727]]

◆バレンンド まるで赤々と燃え盛る焰をそのまま固化させたような、
色と形だったと言うんだな？

[[728]]

◆バレンンド エーえー、そうですとも。素手で触ると、火を掴んだみたいに熱いから、手袋か
布越しじゃないと扱えませんでしたとも。

[[729]]

◆バレンンド それをお前は、磨り潰して汁にしてその駄エルフに飲ませちましたと、そういう
誤だ。

[[730]]

◆バレンンド 仕方ないじゃないですか。そうしないとそのハクメイ、まず間違いなくたば
るといろでしたもの。

[[731]]

◆バレンンド だが、その葺は、それ一本しか見つからなかつたんだろう？ 魔の森の薙草の谷

間でも。

◆「[口]ライター そう言えばもう少しだつけね。

[[732]]

◆バレンンド ななどいつたわ……。

◆バレンンド お前それは、希少種の中でも希少種だぞ。俺が知る限りじゃ、ジ・アビスに冒險者どもが挑むようになつて10年、見つかつたのは一度きり。

◆ハクメイ丸 最終的なサインとかは、ギルド会員の「[口]にしてもらふ」となるけど。

◆「[口]ライター またきな臭い話じゃないですか。マスター、この話、あたしらの他にはどの辺り

持つていつたんです？

[[733]]

◆「[口]ライター (巨那……)の人にまた昔の話をしゃまいましたね(=)

[[734]]

◆「[口]ライター (巨那……)の人にまた昔の話をしゃまいましたね(=)

[[735]]

◆バレンンド いやあ、話の流れで、ついそうなつて)
将覧 (いやあ、話の流れで、ついそうなつて)

[[736]]

◆「[口]ライター (巨那……)の人にまた昔の話をしゃまいましたね(=)

[[737]]

◆バレンンド わしもが惜むようになつて10年、見つかつたのは一度きり。

◆ハクメイ丸 御覽なさい。みんな小言じみた練り言を受けにやならんのやら……。

◆バレンンド 目え血走らせて、鼻あ貫つ赤に膨らませ(=)

◆バレンンド 聞こえとるぞ小娘。また尻の卵の殻も取れんような、小便臭い小娘が聞いた風な

口を抜かすなよ？

◆バレンンド 聞こえとるぞ小娘。また尻の卵の殻も取れんような、小便臭い小娘が聞いた風な

口を抜かすなよ？

◆バレンンド わしもが惜む……つ……あの、大将、あんたはこの主人でギルドとの繋ぎもあるのか

◆バレンンド もあ聞いていいよ。例えばその焰の葺の値段についてだ。言つた通りの希少性

と、かつ調合によつては、100歳の老婆を18の乙女まで若返らせるという手

品をやつてのけてくれるで――

◆バレンンド そんなこんなで、頑学や貴族どもの間では一本金貨3億枚という値がついてい

る、と聞けば、お前も少しは気分も変わらうぜ。

◆バレンンド 聞こえとるぞ小娘。また尻の卵の殻も取れんような、小便臭い小娘が聞いた風な

口を抜かすなよ？

◆バレンンド わしもが惜む……つ……あの、大将、あんたはこの主人でギルドとの繋ぎもあるのか

◆バレンンド もあ聞いていいよ。例えばその焰の葺の値段についてだ。言つた通りの希少性

と、かつ調合によつては、100歳の老婆を18の乙女まで若返らせるという手

品をやつてのけてくれるで――

◆バレンンド そんなこんなで、頑学や貴族どもの間では一本金貨3億枚という値がついてい

る、と聞けば、お前も少しは気分も変わらうぜ。

◆バレンンド 聞こえとるぞ小娘。また尻の卵の殻も取れんような、小便臭い小娘が聞いた風な

口を抜かすなよ？

◆バレンンド お前それは、希少種の中でも希少種だぞ。俺が知る限りじゃ、ジ・アビスに冒險

者どもが挑むようになつて10年、見つかつたのは一度きり。

◆ハクメイ丸 最終的なサインとかは、ギルド会員の「[口]にしてもらふ」となるけど。

◆「[口]ライター またきな臭い話じゃないですか。マスター、この話、あたしらの他にはどの辺り

バレンド ……今のところお前たちが始めてだ。もちろん全部未熟者どもの勘違い、つてのもあり得るんだがよ。

将覧 だがそればかりではあるまい、と。大将はそう申される。

【1742】

◆二コライト こないだの廃墟都市の時と、なんか同じにおいがしてるように気が。

将覧 だが、僕らの同業が困っているのは、それはそれで本當だよ。

【1743】

◆二コライト それ、間違ってるし……しようがない。

将覧 それを守つてくれるんなら、あたしはすぐさま撤退するよ。

【1744】

古代都市の遺構の一件で、二コライトはちょっと用心深くなっている。だが結局

は、依頼を引き受ける事に。

◆ハクメイ丸

【1745】

★★効果・場面転換

近頃冒険者が頻繁に襲われているところに出くわす。

将覧 あれ君たち、先だって二コにさんざか懲らしめられたろうに、まだこんな斬り盗り稼業を続けてるのかい？

盗賊団モブ 何のことを言つているのかさっぱりわかんねえようつ。

あんたらどうのなんて、これが初めてだ。

盗賊団モブ だ、だけど頼む、するが、お願ひだあつ、助けてくれえ、痛え怖え、第一層にあんなのが出でてくるなんて！

盗賊団モブ 追いつかれたつ、死ぬ、蘇生とかできねえくらい、ぐちゃぐちゃにされるよおお

【1746】

◆二コライト 別口の連中みてえですわ、旦那、こいつら。

呆れたような口調ではあるが、通路の彼方から響いてくる地響きに、二コライトは

盜賊団モブ く、く、来るうつつ！

現れたのは――

先たつて、魔の森で遭遇したアレだった。

一頭だけであり、体格も小柄で、印象としては群れからばぐれてしまった若童の感が強いか、それでもその巨体がこんな家屋の密集地を住く様子は充分魯威だ。

雷童だった。

◆ハクメイ丸

【1746】

えー……ジ・アビスは魔所だと聞いてはいるありますが、こう無茶振りをぼい

どうやつて雷童を倒したのか。

将覧 しかしこれは確かになるほど、なまじのパーティでは太刀打ちもできないよね。

けれど、僕達だったら、あるいは、僕だけでは、無理だ。

【1747】

◆二コライト 日那。あんたはどうにも敢えて、いばらの道をゆくお人だつてのはわかります。でもね、難しいとの無理は違う。

将覧 くたばるのが目に見えていて、ぶつかつていぐつもりなら、あたしは日那をぶん殴つてやらないといけない。

【1748】

◆ハクメイ丸 でも、御前。少なくとも今は、捨て身ではない様子……。

ハクメイが見た通り、将覧には何らかの勝算があるらしい。

将覧 あの日、雷童たちを一刀のもとに切り倒していく剛剣を目の当たりにしてから、ずっと工夫を練っていた。

将覧 君たちがいれば、斬り伏せられる。

けれど僕だけでは、無理だ。

だから君たち次第、という事になるけれど。

【1749】

◆二コライト ずるいんだ、ほんとにさ。

将覧 そんな口をされると、そんな口説き文句を吐かれて、厭とか言えるわけやないでしょ。

◆ハクメイ丸 じゃ、二コ姐さんのOKが出たところで、

将覧 行くとしましようか、御前。

◆ハクメイ丸

【1750】

第一層の一画。

ちょっとした大聖堂ほどもある大広間を、なかば倒壊させながらも、雷童はその巨

体を横たえ、昏倒していた。

将覧 よ、勝った。

【1751】

◆二コライト 勝つた、勝ちましたね旦那、けどこれは……。

【1752】

◆ハクメイ丸 ちょっと、ズルのよくな……。

将覧 で、君たちの処遇なんだが、どうしよう。

彼らに引き渡すのが妥当かな。ここからなら入口も近いし。

盗賊団モブ あ、ああ、達、そうじゃない、あんたたち——

盗賊団モブ まだ、まだなんだ……。

盗賊団モブ ギー……ふうつ！
盗賊団モブ グツ、ギリフ！

大広間の中に飛びこんできた何者かが、ぐ風のように吹き荒れて、追剥衆を剣で、

魔法で、鉤尾で殺していくた。

：★イベンTCG-1-3・エイジン登場・基本構図

広間の中を跳躍し、そいつは片足をシャンデリアの鉄の輪に乗せ、片足を一番太い鎖にかけ、尾を同様に鎖に巻きつけ、体を支え、斜めになつて見下ろしてくる。

肩に乗せて担いだは、刀。

[760]

◆ハクメイ丸 なに、あれは……嘘、自分でも捕え損ねる速さなん……。

[761]

◆二コライド あんな魔物知らない、だからって人である訳でもない。あたしはあんなの知らない——！

[762]

◆エイゲン この迷宮に、刀術使いがいるとは聞いていた。

[763]

◆ハクメイ丸 だが、まさかお前たったとはなあ……！

[764]

◆将覧 久しいな、将覧、久しいな、将覧、

[765]

◆将覧 銀玄「えいげんあに！」 兄弟子いいいつつ——！

[766]

◆将覧 將覧はこんな異形の姿を、しかし一目で見分ける。姿は変わっているものの、彼は

[767]

◆ハクメイ丸 二コライド、それに御前も。こいつらのこの傷……これは誰に、どんな得物でやられたものだと思うでありますか……？

[768]

◆将覧 見ればわかるのがいくつがあるな。これは刀傷だ。おや……？ しかもこれは、手加減されている？

[769]

◆ハクメイ丸 二コライド、その傷……これは誰に、どんな得物でやられたものだと思うでありますか……？

[770]

◆将覧 こつちは、凍傷に、火傷？ この2つがいつぶんにあるつてのは、氷と火にまとめてやられたとかで、そんなのは……魔法？

[771]

◆将覧 こつちは良くわからない。何か鉤みたいなもので引き裂かれたような……。

[772]

◆将覧 もう、いいだろ？ そうだば、俺たちあんな首長竜にやられたんじゃない。

[773]

◆将覧 盗賊団モブ あの童だつて、あいつに迫り立てられてただけだ。

[774]

◆将覧 反りの有る……。

[775]

◆将覧 盗賊団モブ あんたと同じような剣を持つてたんだ。

[776]

◆将覧 盗賊団モブ あんたと同じような剣を持つてたんだ。

[777]

◆将覧 反りの有る……。

[778]

◆将覧 いやあさすがの太刀筋ですな、危うく首が飛ぶところになりましたあつはつ

次の瞬間に、剣閃と素炎と尾の鉤が追剥衆を切り、焦がし、引き裂いていった。

盗賊団モブ グツ、ギリフ！

盗賊団モブ エイゲン、

盗賊団モブ ジー……ふうつ！

盗賊団モブ グツ、ギリフ！

盗賊団モブ 大広間の中に飛びこんできた何者かが、ぐ風のように吹き荒れて、追剥衆を剣で、

魔法で、鉤尾で殺していくた。

：★イベンTCG-1-3・エイジン登場・カットイン差分

人のようないわゆる魔物のようないわゆる魔物の姿、その体は文字通り鋼のよう見えるが、生身の肉のようにならぬかに動く。冒険者殺しは追剥衆の生き残りを駆除し、そして侍に襲いかかる。

[765]

◆二コライド え、あ、いいい！？ いま、兄つて、なに！？

[766]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[767]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[768]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[769]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[770]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[771]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[772]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[773]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[774]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[775]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[776]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[777]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[778]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[779]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[780]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[781]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[782]

◆将覧 弟弟子——！ やいや会えて嬉うう！ ざりまする！

[783]

は、死に化粧の紅を点す暇くらはいただきたい。

◆エイゲン そらむ、首をよ」せー

◆将覧 [1769]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1770]

おおで兄弟子、もういいでしよう。僕が、道場の頃から兄弟子に勝つたことなどあります

兄弟子、もつらいでござりますな、一緒に如何です。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1771]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1772]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1773]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1774]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1775]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1776]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1777]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1778]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1779]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1780]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1781]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1782]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆将覧 [1783]

おお今度は胴から真つ二つにされるところでした。さじて兄弟子、実は僕は唐渡り

せつかくの再会なのですから一献共に傾けませんか。

◆エイゲン せらん、死ねえつ。

◆エイゲン ち、家伝の宝に命すべられたな。
◆エイゲン だが、駆せよこれくらい、このへたくそめが。
◆将覧 [1784]
兄弟子、もういいでしよう。僕が、道場の頃から兄弟子に勝つたことなどあります
したが、僕の剣腕はよく存じの筈。
降参ですよよ兄
◆エイゲン 降参などさせないかい。お前なぞ斬り殺すだけだ。
◆将覧 [1785]
おおなあ将覧でめえさつきからぐだぐだ口三味線ばかり弾きおつて。俺も口で
言わざらあ判らんか?
◆エイゲン 俺はただただ貴様を斬りたいだけだなあ。
◆将覧 [1786]
それ以外は貴様など閑わりたくないのだ。
◆エイゲン 降参などさせないかい。お前なぞ斬り殺すだけだ。
◆将覧 [1787]
見る間に、将覧の闇氣が萎えていく。
◆エイゲン 昔から、そして今も。てめえのことなど大つ嫌えなのだからよ。
◆将覧 [1788]
鏡玄兄……うううんとも?
◆エイゲン ほう。道場剣法からは卒業したようだ。
◆ハクメイ丸 [1789]
劍に粘りがある。
◆エイゲン [1790]
だつたらい」こつはどうだ!—
◆エイゲン [1791]
だつたらい」こつはどうだ!—
◆ハクメイ丸 [1792]
ハクメイ丸、いや——
◆エイゲン [1793]
ハクメイ丸、いや——
◆エイゲン [1794]
ハクメイ丸、いや——
◆エイゲン [1795]
ハクメイ丸たちに向かって手の中に魔力が収束していく。
◆エイゲン [1796]
おおお婆まじき焰、兄弟子は魔術まで修められましたか、感服の限りです。しか
し煤臭いですな、どれ一緒に湯など浴びて、背中の流しつこでも——
◆エイゲン [1797]
おおお婆まじき焰、兄弟子は魔術まで修められましたか、感服の限りです。しか
し煤臭いですな、どれ一緒に湯など浴びて、背中の流しつこでも——
◆将覧 [1798]
ふ、く……こ、れは——尾、その鉤ですか兄弟子。なるほど、見分けがつ
かぬ傷痕は、これで、長札縫があらなんんだら、はらわたをぶちまけていたといふ
です、それで兄弟子、僕と——
◆将覧 [1799]
待たれよ兄弟子、彼女たちは違うでしょう。
斬るな僕だけを——

◆エイゲン 何をつれねえことを言う。

俺も気前の良い事だ。

パーティ一行に最後の瞬間が迫るうとした時。

将覧とエイゲンの間に飛来し、突き立ち、2人の間合いを破つた矢があった。

[1798]

◆黒塚 新らなはさつきとして、あなた。

じやれ合つたら、その辺にして、2人とも。

侍と冒険者殺しの間に突き立つ矢。

長い黒髪の典雅な娘が、広間の高窓の枠に立つて、弓を構えていた。

[1799]

◆エイゲン ……貴様の方こそ下らん水を入れてくれたな。

[1800]

◆黒塚 刀を突きつけて、だらだら話しているからそうなる。

構えたなら、斬る、撃つ。

黒塚が矢を放つ。

今までエイゲンが立つていた位置に突き立つ。

[1801]

◆黒塚 ——こんな風に。

[1802]

◆エイゲン 良い矢離れた。

あれか。つまりはお前も斬られたいのか、俺に。

[1803]

◆黒塚 わたしに気を逸らさないで。

[1804]

◆エイゲン ——あん?

[1805]

◆黒塚 わたしに横見なぞしないで、ただその子と斬り結ぶことだけを考えて。

[1806]

◆エイゲン そうしたなら、その子は強くなれる。剣の一聖[ひじり]に近づく。

そうなれば素敵。そうなればいい。ああもちろん、あなたを相手にして生き残れたら、だけど。

[1807]

◆エイゲン ……氣色悪い女だな。どうにも人を馬鹿にしていやがる。なんだその上からもの

[1808]

◆ハクメイ丸 うわー……どの口がそれを言うのや。

[1809]

◆ハクメイ丸 上の黒いのも、下の黒いのも、両方ともおかしいであります、自覚はきつとないでありますよ、ああいう類のは。

[1810]

◆エイゲン 興が削がれた。帰る。また殺しに来てやろうな、将覧よ。

将覧。わたしもいつたん下がろう。

将覧。わたしのきみ。またすぐに会うから、それまでのお別れ。

去つて行くエイゲンと黒塚。

[1811]

◆黒塚 「コライト エ。また旦那を知つてやつてわけですか、ありや。えーと、旦那と同じ年かちよい下くらい……妹弟子、とか?」

[1812]

◆ハクメイ丸 問題はあれ、多分御前の故郷の人で、えつれえ美形だつて事でありますよ。なんか御前に因縁ありげだつたし。これすっげえやっこいことになる気が……。

[1813]

◆ハクメイ丸 彼女のこと、僕は知らない。いや確かに知らない筈なんだが。何だろう、この、歯にモノが挟まつた感じは。

[1814]

◆ハクメイ丸 「コライト ……でも今度は、あたしたちだつてびっくりしてるだけじゃない。きっと一泡吹かせてやるんだから。」

[1815]

◆ハクメイ丸 「エイゲン殿」と言いましたか? 何か誤解とか、あるですよ。じゃないとあんなふうに御前のこと斬ろうとするなんて……。

[1816]

◆ハクメイ丸 あれは誤解じゃない……兄弟子は本気で物を言つておられた。はあ……今まで生きてきた中で最悪の衝撃だ。

[1817]

◆ハクメイ丸 機は兄弟子のことが本当に好きだった。いや、今でもいいんだ。
錫玄兎が相手なら衆道の契りを結んでもいいんだ。

[1818]

◆ハクメイ丸 一体なぜこんなに嫌われてしまつたのだろうか……。

[1819]

◆ハクメイ丸 「いやそれ、旦那がそんなだからじゃないですかね。」

[1820]

◆ハクメイ丸 「うわー……」

[1821]

◆ハクメイ丸 「うわー……」

[1822]

◆ハクメイ丸 「うわー……」

[1823]

◆ハクメイ丸 「うわー……」

[1824]

◆ハクメイ丸 「うわー……」

[1825]

◆ハクメイ丸 「うわー……」

[1826]

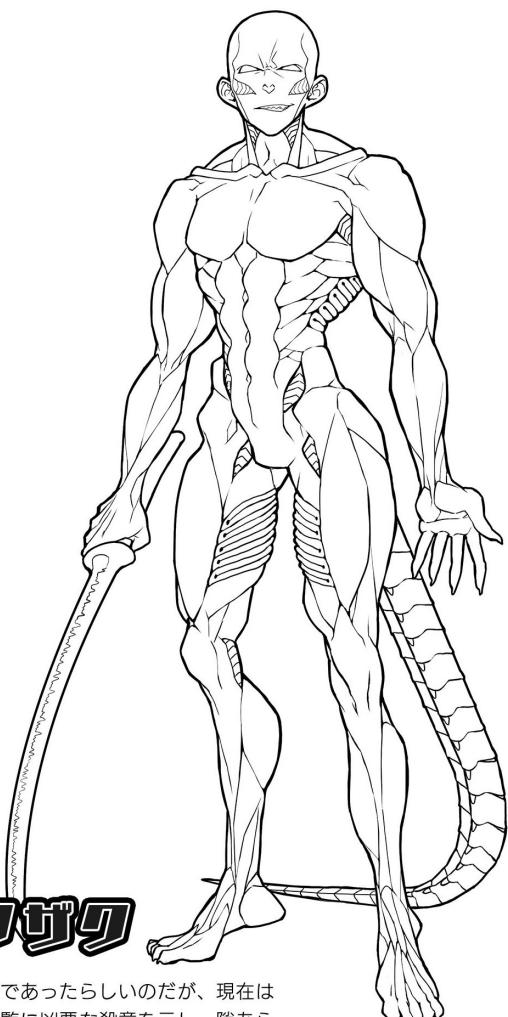
◆ハクメイ丸 「うわー……」

[1827]

◆ハクメイ丸 「うわー……」

[1828]

◆ハクメイ丸 「うわー……」



SAMURAI
エイジア・ワザワ

外道に落ちた魔劍士。かつては「侍」であったらしいのだが、現在は「サムライ」とクラスチェンジ。将覧に凶悪な殺意を示し、隙あらば念入りに斬り殺してやろうとしている。

MONSTER IN ABYSS

ドラゴン



スフィンクス



お化け草



オーク

ゲイザー



ゴブリン

DUNGEONS & DAIMEIWAKU

大迷宮 大迷図

～GREAT EDGES IN THE ABYSS～

原画/こめ シナリオ/希
主題歌/Rita 音楽/さっぽろももこ

Windows Vista/7/8/8.1/10

2016年9月30日発売予定

